笠間市議会清掃施設整備等調査特別委員会記録（第28回）

令和6年11月18日 午前9時00分開会

出席委員

委員長	西山	猛	君
副委員長	益子	康子	君
委員	長谷川	愛子	君
委員	酒井	正輝	君
〃	河原井	信之	君
〃	鈴木	宏治	君
〃	川村	和夫	君
〃	坂本	奈央子	君
〃	安見	貴志	君
〃	内桶	克之	君
〃	田村	幸子	君
〃	林田	美代子	君
〃	田村	泰之	君
〃	村上	寿之	君
〃	石井	栄	君
〃	畑岡	洋二	君
〃	石松	俊雄	君
〃	大貫	千尋	君
〃	大関	久義	君

欠席委員

委員	飯田	正憲	君
〃	小藺江	一三	君
〃	石崎	勝三	君

出席説明員

環境推進部長	小里	貴樹	君
資源循環課長	成田	崇	君

出席議会事務局職員

議 会 事 務 局 長	山 田 正 巳
議 会 事 務 局 次 長	堀 内 恵 美 子
係 長	神 長 利 久
係 長	上 馬 健 介

議 事 日 程

令和6年11月18日（月曜日）

午前9時00分開会

- 1 開会
- 2 案件
 - (1) 質問事項に対する回答について
 - (2) ゆかいふれあいセンターの今後の在り方について
 - (3) その他

午前9時00分開会

○西山委員長 おはようございます。

委員の皆様には大変お忙しい中、第28回清掃施設整備等調査特別委員会にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。

早速、会議に入りますのでよろしくお願いいたします。

○西山委員長 本日の出席委員は、現在15名であります。欠席委員は、石崎委員、飯田委員の2名で監査が入っているということでそちらに執務中でございます。それから遅刻ということで連絡がありましたのが大関委員、鈴木宏治委員の2名でその他は、いま連絡がとれていないという状況でございます。

15名おりますので、定足数に達しておりますので、ただいまから会議を開きます。

本日の会議では、現時点では執行部への出席は求めておりませんので、執行部の出席はありません。ただし回答について、委員からのご意見等の中に執行部の説明が必要ということであれば、担当者等は自席にて執務中でありますので対応ができるようになっておりますので、よろしくお願いいたします。

また、議会事務局より局長、次長、係長が出席しております。本日の会議の記録は上馬係長にお願いいたします。

また、本日は傍聴の申出がありましたので、これを許可しております。傍聴の方が入りますのでよろしくお願いいたします。

○西山委員長 それでは、早速、本日の案件に入ります。

まず（１）質問事項に対する回答についてであります。この件は去る 11 月 8 日に開催いたしました第 27 回の委員会において、10 月 23 日付けで当委員会から提出いたしました質問事項に対する回答期限が 11 月 15 日まで延長となったことについて、委員各位にご報告をしたところであります。

11 月 15 日付で質問事項に対する回答を受理いたしました。委員の皆様やには既にタブレットにアップをしておりますので、ご覧いただいたところでございます。ここで執行部からの回答について、委員各位からのご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

暫時休憩いたします。

午前 9 時 0 3 分休憩

午前 9 時 1 7 分再開

○西山委員長 休憩前に引き続き会議を開きます。

大関委員、それから鈴木委員が着座いたしました。

加えて執行部より、部長、それから課長が説明のため出席をしております。

休憩中にご意見が出ました。質問等が出ましたので、精査したいと思います。

まずは内桶委員からの質問を再度お願いいたします。

○内桶克之委員 回答の中では、基本計画ができなければ回答ができない部分が多いということだったのですが、この前の第 24 回で、施設の規模の見直しをするということで、焼却施設が 65 トンが 52 トンに、焼却の部分です。バイオ発電施設が 35 トンが 32 トン、マテリアル施設が 18 トンが 14 トンということになったのですが。これについて基本計画ができなければ施設の費用が出ないということがあったのですが、どのくらいトン数の減で費用のほうが変わるのか、その分は費用算定をしないのか、その点を教えてください。

○西山委員長 課長答弁。

○成田資源循環課長 資源循環課成田でございます。よろしくお願いいたします。

内桶委員からのご質問でございますが、概算事業費が規模見直し後のものが出るのか出ないのかということなのですが、回答の中でいきますと 3 番の回答になってくるわけなのですが、基本計画策定段階でのいわゆる概算事業費の熟度と申しますか、精度的なものがございまして、昨年度の第 10 回で出させていただいた内容の水準であれば、再度規模を見直しておりますので算出するというところでございます。

以上でございます。

○西山委員長 内桶委員。

○内桶克之委員 それがいつの時点で算出をするのか、ということになってくると思うのですが、その点についてはどうですか。

○西山委員長 課長、答弁。

○成田資源循環課長 いつ頃かということなのですからけれども、基本計画策定が、現在、若干遅れている状況でございます、規模の算出に当たりましては早々に入りたいというふうに考えてございますので、場合によっては年内、遅くとも年度内には整理していきたいというような考えでございます。

以上でございます。

○西山委員長 内桶委員。

○内桶克之委員 この予定でいくと、庁議までを10月いっぱいぐらいに終わりにして、11月には施設計画のところをしっかりとしていきたいということなのですが、それが年内にずれるという確認でよろしいですか。

○西山委員長 課長、答弁。

○成田資源循環課長 はい、そのとおりでございます。

おおよそ3か月から4か月程度の遅れが生じていると見ておりまして、年内ないし年明けというようになるところになってくるというふうに思っております。

○西山委員長 石松委員の質問、よろしくお願ひします。

○石松俊雄委員 いまの内桶委員の質問とちょっと関連するのですが、いわゆる基本計画のコンプリートは、いつを目標にしているのかということです。先ほどの話だと、年内か年明け早々という話なのですが、これは本当にコンプリートに近い計画案そのものが年内に提示をされるという理解でいいのでしょうか。

○西山委員長 はい、課長。

○成田資源循環課長 我々としてはそのようなスケジュール感で考えてございます。ただ一方で調査特別委員会のほうからの提言ご意見ですとか、地元説明会等々での地元住民の皆様からのご意見等々もある中で、やはりそこら辺を踏まえていく必要があると思っております。遅れが生じているということでございます。

以上でございます。

○西山委員長 はい、石松委員。

○石松俊雄委員 調査特別委員会からの意見もあるし、地元の意見もあるのは当然分かっているのですが、そういうことを含めて、どうコンプリートするのですか。いつ頃になるのですか、目標は。

○西山委員長 課長、答弁。

○成田資源循環課長 最悪、年度内には整理したいというのがこちらの考えでございます。

○西山委員長 はい、石松委員。

○石松俊雄委員 年度内というのは、ぎりぎりでも3月いっぱいということになるのでしょうかけれども、そうすると特別委員会の意見も地元の意見も含めた基本計画のまとまったものというのは、さっき課長が言った今年中それとも来年のはじめなのですか。

○西山委員長 課長、答弁。

○成田資源循環課長 そういったところを含めまして、年内から年明け、1月ぐらいというのが今のスケジュール感でございます。

○西山委員長 石松委員。

○石松俊雄委員 二つ目のPFI導入可能性調査なのですが、これは基本計画と並行して関連してくるのですが、可能性調査の中身については、いつ頃我々に出していただけるのかということと、それから公民連携審査委員会にかけると思うのですが、その日には、計画では出ていたのですが、3か月から4か月ぐらい遅れているという話なのですが、これはいつ頃になるのですか。

○西山委員長 課長、答弁。

○成田資源循環課長 まずPFI導入に関してですけれども、これまでの答弁の中で、たぶん昨年度末とか年度早々にというような答弁をさせていただいたかと記憶してございます。そういった中でPFI事業に関しましては、概算事業費のところの影響してまいりますので、当然、規模もそうなのですけれども、そういった中で、やはり12月、1月の同時の出し方になっていくのかというふうに思っております。

それから、公民連携審議会でございますが、以前の調査特別委員会の中で、事業の頭出しをかけさせていただくということで、一度、公民連携審議会のほうに、こういう環境センターの建設事業を予定していますということで、現況のデータは、実は出してあります。そこでは、特段頭出しでしたので、何らかの議論がなされたという認識は我々持っておりません、今後やっていきますというところでございます。

合わせて、11月7日に、これは環境センターとは別なのですけれども、ゆかいふれあいセンターのほうに公民連携事業の特定事業にかかわってきますので、そちらも現況のみ出させていただいております。

以上でございます。

○西山委員長 石松委員。

○石松俊雄委員 ということは、もう公民連携審査委員会に基本計画案じゃなくて、いま我々に出しているような内容が提示されているということなのですか。

○西山委員長 課長、答弁。

○成田資源循環課長 現状データのみを提供しているというところでございます。

○西山委員長 石松委員。

○石松俊雄委員 ということは、審議会の議論が始まっているということになるのじゃないですか。我々に対する説明と違うでしょ。審査委員会・・・。

○西山委員長 課長。

○成田資源循環課長 現状のデータのみで、今後、本格審議に入っていくのでよろしくお願ひしますという書き方をしたということでございます。

○西山委員長 石松委員。

○石松俊雄委員 余り納得いかないのですが、それはいいや。

三つ目の事業者選定アドバイザー契約の話。ここに回答が書いてあるのですが、率直に聞きたいのは、この委員会の共通認識は、環境技術研究所は駄目でしょう、というのが共通認識なのです。そういうのは踏まえていただいて、こういう回答になっているということでもいいのですか。

○西山委員長 課長。

○成田資源循環課長 今回の回答につきましては、調査特別委員会からの今回の質問状もそうですし、前回の提言書のほうも、いま委員のほうからご発言ありました点やご指摘、それらを含めた中での回答ということで、我々のほうは出したものでございます。

○西山委員長 石松委員。

○石松俊雄委員 特別委員会の意見については、受け止めていただいているというふうに理解していいのですね。

○西山委員長 課長。

○成田資源循環課長 そこを踏まえての回答という捉え方でよろしいかと思えます。

以上でございます。

○西山委員長 続きまして、石井委員。質問の精査をお願いします。

○石井栄委員 回答の1の中の3ページです。

表1というのがありまして、各施設のCO₂等年間総排出量の比較という表が出ています。この中で②と③、新清掃施設で②の焼却施設65トン+バイオガス発電施設35トン併設の場合と、焼却施設のみ80トンの場合の年間のCO₂排出量が推計値として出されていますけれども、バイオ発電施設併設の場合9,581トンCO₂が年間で発生という推測値です。焼却施設のみの場合9,634トンということで、この差は年間53トンということになります。全体の清掃施設だけの場合の発生率から見ると0.55%になるわけです。それを四捨五入して0.6%の差となりますと書いてあると思うのです。これで20年間で1,060トンCO₂の削減ができるということがここで書かれてありますが、この文章の一番最後に、現段階においてCO₂削減効果等の試算については、これ以上の精度向上及び検討を深めることは難しいと考えていますと。

そういうことだろうと思うのですが、普通、一般的に考えますと、事業でいろいろ出てくる誤差とかというのは、数%の誤差というのは通常は十分ありうるのです。0.55%の削減効果があるということは、これ以上の精度向上及び検討を深めることは難しいという点を考えると、何かこの0.55%自体が効果と言えるのかどうかということが疑問としてあるのです。

こういう数字を含めて出したことは、一生懸命研究されて出した数値だと思う、よく出しましたというふうに思います。

これについては、精度向上検討が難しいと書いてありますが、0.55%について、どんな

評価をしているのですか。本当に効果だと認めることができる数値として出しているのかどうかお聞きしたいと思いました。

○西山委員長 課長、答弁。

○成田資源循環課長 こちらのCO₂の計算についてですけれども、前提としましては今回の新清掃センターを整備するにあたりまして、環境負荷にできるだけ配慮できる施設を目指していくとした中で、現環境センターとの比較というのをまず一つ置いております。

現環境センターに対して、どの程度削減できるのかというところでございます。それはバイオ併設であっても焼却のみの施設であってもそれなりの差が表れており、一定の効果があると考えております。

その上でバイオ併設型と焼却単独でのCO₂の差ということになってくるのですけれども、この表の1につきましては、単純にバイオのほうでも焼却のほうでも、それなりの発電ができた場合の差ということでお示ししてございます。

前回お示した補足参考資料では、文章で補足事項として記載しておったのですけれども、これまでの説明の中で、焼却単独でいくと、ごみ量の減少、ごみ質の変化、また小規模というところから、年数を重ねるごとに発電が難しくなっていくのじゃないかと考えておりますので、そうした場合には、表の2のほうになるのですけれども、6.6%ぐらいの差が表れてくるのではないかとこのところでございます。

これらを総合した中で、新環境センターについて、バイオを併設した場合一定の効果があるであろうというふうに捉えているところでございます。

最後にもございますように、仮の数字を置いての試算ということですので、どうしてもこれ以上は深まらないというのが、我々執行部の回答というところでございます。

以上でございます。

○西山委員長 石井委員。

○石井栄委員 いまのような発言になるのだろうというふうには思うのですけれども、いずれにしても、具体的な、ある程度しっかりした計画が出されないと、これらの数値についても、そうだなというレベルには達しないのかな、というふうに思うのですけれども、そういう捉え方でいいのですよね。

○西山委員長 課長、答弁。

○成田資源循環課長 そういう捉え方というか、先ほど申し上げたとおりの認識でいるというところでございます。

以上でございます。

○西山委員長 よろしいですか。

大貫委員。

○大貫千尋委員 先ほどの内桶委員から質問なのですが、見積りとか建設費の問題については、日にちを限定して、その時点を100として、こういうふうにするれば85になります

よ、こういうふうになれば75になりますよ、という出し方をしないと出ないです。というのは、セメントの1トン当たりの値段、鉄鋼の1トン当たりの値段は、随時変わっていますから、大きい建物とか、何かの建設関係の見積りというのは、何年何月何日時点として見積りを提出して、基本的には甚だしく、役所であっても県土木であっても、県の積算基準であっても、基準単価は7月半ば頃に発表はするけど、3か月3か月で市場調査を行った上で、同じものを作った場合でも、値段の変更は設計の中に入れますよという約束を、昭和の時代は請負人と発注者で、そういう差別がありましたけど、平成26年に品質管理法が国土交通省をもとにしてできあがってからは、あくまでも発注者、受注者ということで、平等な立場ということで日本の法律で認めているわけなのです。その基準を何年何月何日時点で100とすれば、内桶委員の質問に対して、それが75になります、85になりますというお答えはできるのです。こんなことを言うてはあれなのだけど、勉強全くこの部長さんも課長さんもしてない。だから平気で65トン+バイオ35トンと80トンの高効率発電が維持管理費も含めて同じ値段ですということ平気で認められる。これは誰に聞いてもあり得ない。私が赤い数字を出したのは、コンサルタントのOBの人にウイスキー2本です、お礼として。あなた方は、ウイスキー2本に対して何百万円、何千万円というお金を使っているのだから、現実に。あなた方の給料も含めて、みんな笠間市の税金ですから。だから勉強する気がないにしか思えない部分がありますよということ。現実に、隣接の茨城町の職員の方に聞きに行ったり、大洗町の職員の方に聞きに行ったりすれば、こういう過程を5年も10年も前から進めてきて、いま発注して建設をしてるわけです。私は、茨城町の議員さんとか大洗町の議員さんとか職員の方とか、そういう人から、友人関係ということで聞いているわけだから。現実にあり得ないでしょう、65トン+35トンのバイオの値段と85トンの高効率発電の値段が一緒ですなんていう話は。まるっきりインチキです。公文書違反ですからこれ。前の課長さんが出てこなくなった理由がここにあるんじゃないですか。それを指令したのは誰なのか。これ歴史が解決しますよ、必ず、先行き。真剣に自分が公務員であるということ自覚して、誰に命令されようが、誰に勧められようが、自分が公務員として、公人としてのプライドを持った仕事をやってください。そうすれば、内桶委員の質問に対しては簡単に答えられるわけだ。

それとあと一つは、CO₂削減の問題だけど。実際0.5%の削減云々と言うけど、それはバイオの建設したときの1トン当たりの鉄を生産するときのCO₂の問題。一つの物を建設するためには、後ろにCO₂が隠れているのです。そのことを計算したときに、プラスマイナスゼロになるかということ。江戸崎の職員は返ってプラスになってしまうと、CO₂の削減。だからバイオを諦めたのですという結論を出しているわけだ。副市長は一回、江戸崎からいろいろな資料もらったりして勉強したらしいのだけど、それが一つも反映されてないけど、自分らも行って勉強してきてよ。

それとあと一点、役所で勝手にどんどん進めているけど、いまの施設は正直申しまして

首長が三代にわたって24年間もめにもめて、いまの地域にあの施設ができたのです。大変な苦勞をして。いまの笠間の市長が苦勞して作った施設じゃない。我々ここにいる議員が苦勞して作った施設ではない。それを建て替えるにあたって、地元とのきちんとした話合いの結果の報告が我々にされてるのですか。最後に課長さん、昨日、地区の総会をやったそうなのですが、前回の地元説明会と昨日の地区の総会の結果をどういうふうにお聞きしていますか。お答えください。

○西山委員長 課長。

○成田資源循環課長 10月20日、22日の結果については、前回ご説明した内容のとおりでございます。

昨日、柏井区の総会ということで、前回の説明会に欠席された方もいらっしゃったということで、その方たちに対しても、いまの現状を説明してほしいというようなことで、昨日お邪魔させていただいたところでございます。

会議中でのご意見につきましては、大筋前回の10月のときと同様のものが出ておまして、臭気の問題、バイオガス発電施設の安全性、危険性などから地域のイメージダウンにつながるのではないかとということで、地域としては反対といったご意見もございまして、中には施設をよく見て考えたほうがいいのじゃないかというようなご意見もあった中で、10月20日同様、地域としては反対の異論が出てるのかなというふうには捉えているところでございます。

以上でございます。

○西山委員長 大貫委員。

○大貫千尋委員 一番大事なのは、23年も24年もあっちだこっちだそっちだもめて、最終的にあの地域の人が引受けてくれたわけです。その気持ちが一番重要なことから。こうしたいああしたいという、市長はじめ、あなた方の気持ちが理解できないわけではないけど、一番大事なのは地元の意見だから。それが嫌だったら、取壊して撤退をしていただいて別なところに作ってくれという意見もありますからね。部長さんと課長さんで責任とれるのか、あなた方で。とても探してこられないだろ、その場所。いまの市長だって難しいと思う。市長の家の前に作れなんていう意見もあった話も聞いている、私は。一番基本の基本をおろそかにして、空想的に話を進めているから、議会の中だって空回りしちゃうのです。説得力がないもの、現実。実際は、いま現在人口が減りつつあって、今度新しい施設を作ると、どんなことをしても30年40年使わなくちゃならないわけです。長寿命化という話も出てきてる。そうした中で、この間、市長がお答えしたでしょう、15年先人口が幾つになるのですか、笠間市は。6万5,000人が想定される。その先の5年後には6万人。現実には、あなた方が市民の税金の効率化を考えたときには、高効率発電付きのストーカー2基の60トンで間に合います、60トンで。大体負荷率が1割あるから66トンまでは燃せるわけです。それが2炉体制だから、24時間燃やせば、暮れとかなんか

にごみが集まってくれば、2炉一緒に燃やせばいいのです。新しく燃やしたほうはそのまま燃やして、古いほうは休眠させればいいのです。あなた方、計算した試算、私は大体出てますから。60トンでやった場合、あなた方の65トンのうち35トンの当初のバイオの値段の約50%です。

それとあと一つは、一番大事なことは、国からも県からもお金がもらえない維持管理をしていくお金。これはどんなメーカーに頼んだにしても、焼却炉の部分の管理とバイオの施設の管理は、これどんなことをしても1.5倍以外では済みません。それが20年30年続くのだから、その辺の説明も議員の皆さんにきちんと経費面の話もすべきなのですよ、あなた方は。

一番の問題は、先ほど石松委員が言いました、環技は入れないでくれ。茨城町の新しい施設に対して、部長と副市長は指名選定の委員会で、文書で環技を推薦しているのです。皆さん、このいいかげんなデータを作ったコンサルタントを推薦してるのです。入れたくないものを笠間市の意見で入れているのです。全くおかしいじゃないですか。しっかり頼みますよ。

○西山委員長 答弁は難しいですね。

○大貫千尋委員 証拠があるから答弁してもらってもいいよ、これ見ているのだから、書類を。

○西山委員長 答弁はよろしいですね。

○大貫千尋委員 部長だってかわいそうだっぺよ、部長が自分で押したのじゃないもの、押せと言われて押しているのだから。

○西山委員長 もう一度整理します。

15日付で執行部よりいただきました回答書についての質問あるいは意見等ございましたら改めていただきたいと思います。

先ほどいただいたものは整理いたしましたので、その他でありますか。

なければ、質問を受けたということで、処理をしたいと思います。回答は受けたということ。

なければ、いまの段階で、回答は取りあえずこの内容で、プラスアルファ皆さんの質問を回答いただきましたが、この辺でよろしいですか。

大貫議員どうぞ。

○大貫千尋委員 何事も勉強なのだから、先ほど内桶委員が言った、何の時点でも100とすれば、こういうふうに変化をさせた場合、幾つになりますという数字ぐらいは出させてください。このままじゃなくて。そんなことはできるわけだから、やる気があれば。

○西山委員長 暫時休憩いたします。

午前9時49分休憩

午前9時50分再開

○西山委員長 休憩前に引き続き会議を開きます。

大貫委員の質問に対してちょっと、課長のほうから答弁がありました。

課長、よろしく。

○成田資源循環課長 概算事業費の算出に関してなのですが、大貫委員おっしゃるように通常工事であれば、確かにその都度都度の基準単価をもって我々道路でも何でも積み上げて計算してまいります。また、見積りに関しても当然そのとったときの、いつ現在というもので、場合によっては入札までに日数があったりすると時点修正かけたりとか最新の単価で発注をしていくわけなのですが、ただ今回の基本計画での概算事業費は、あくまで施設のトン数程度しか分かってない情報で算出することになりますので。また今回回答をした内容と重なってしまうのですが、どうしても類似施設の規模からのトン数での割り返し位程度の水準のものしかお示しできないというのが現状でございます。

仮に、ある程度詰まったものが出るとすれば、次のステップになるのですが、基本設計等々で、仕様等の細部が固まってくれば、それに伴って取る参考見積りの的なものであれば、これ以上の精度になってくるのだらうと。そういった趣旨の回答をさせていただいてるところでございます。

以上でございます。

○西山委員長 よろしいですか。

大貫委員。

○大貫千尋委員 いまの課長さんの答弁なのですが、基本モデルをきちんと設定すれば出せるのです。江戸崎なら江戸崎、どこならどこ、高効率発電と焼却炉だけでやった場合、60トン規模ならば幾らです、70トン規模だったら幾らですと、令和6年の5月時点の実勢価格を。いまパソコンの時代だから出せますから。

それと、あなた方が言ってる52トンの焼却炉とバイオ、バイオもやってる会社もあるし、現施設もあるわけだから、概算でこのぐらいになります、ただ、時代に応じて価格の変動はありますぐらいの数字は出せるだらう、あなた方の努力で。その程度でもいいと思います、出していただけるのであれば。

我々も勉強しなくちゃならないのだから。お願いします。

○西山委員長 課長。

○成田資源循環課長 御意見ありがとうございます。

前回お示しした概算事業費も、手法としては、その内容でやったつもりではおりますが、今回、規模見直しに伴いまして、再度再算定を行うにあたり、基本計画段階でできる範囲になろうかと思っておりますけれども、再度精査させていただきたいと思っております。

以上でございます。

○西山委員長 よろしいですか。なければ、執行部には退席を・・・。

大関委員どうぞ。

○大関久義委員 前に成田課長とは話はしたと思うのですが、維持管理費の問題というのは大事な問題なので、それもきちんと出してほしいというお願いをしたと思うのですが、それらについては、この建設費と同時に、その辺の数字も出してもらうことができますか。

○西山委員長 課長、答弁。

○成田資源循環課長 前回より提示しているものが、建設費と運営 20 年間の概算事業費ということで出しておりますので、今回見直しに伴うものとしましては、その両方という認識であります。

以上でございます。

○西山委員長 大関委員。

○大関久義委員 運営費は、大貫委員からもあったように、補助金の対象にはなっていない、いわゆる一般財源から全部出るやつなので、大事な部分だと思うのです、これは。だからその辺も、いわゆるバイオを取り入れても取り入れなくても、同じぐらいの運営費で大丈夫ですというようなものが、前に示されているが、その辺のところの精査はきちんとできるということによろしいですか。

○西山委員長 酒井委員が着座いたしました。

課長、答弁。

○成田資源循環課長 繰り返しにはなりますけれども、精査といたしても、いまできる概算事業費の算出の熟度といたしますか、限度がございますので、その範囲での精査になるうかと思えます。

以上でございます。

○大関久義委員 できるだけのものでいいです。よろしくお願いします。

○西山委員長 安見どうぞ。

○安見貴志委員 いま、一部の方から金額の精査をという話が出ました。これは意見として出たのであって、委員会として求めるかどうかは、また別の話かと思うのですが、そこいかがでしょうか。

○西山委員長 暫時休憩いたします。

午前 9 時 5 6 分休憩

午前 9 時 5 7 分再開

○西山委員長 休憩前に引き続き会議を開きます。

田村泰之委員が着座いたしました。

課長、答弁。

○成田資源循環課長 概算事業費につきましては、当然、先ほどまでのご質問いただいた

中で、答弁させていただいたようなプロセスで組み上げていく形になると思います。結果として石松委員おっしゃるように、基本計画に当然、概算事業費というものは出していきますし、また先ほど来のご質問での、いわゆるPFIの部分にも関わってまいります。当然、表立って出てくるものでございますし、委員会での議論のプロセスというのも含めて基本計画にどう整理していくかというあたりになってくるかなと。おっしゃるとおりかなと思います。

○西山委員長 よろしいですか。

石松委員。

○石松俊雄委員 大貫委員がさっき言われた地元の話です。この前も私言いましたけど、具体的にどういう説明をして、どういう意見があって、やりとりがあるのでしょうか、その辺はちゃんと聞かせていただかないと。地元の中に反対の意見があるとか、そうらしいとかでは困る。反対の意見があつては委員会としてもやっぱり困るから、そこは基本計画の中に入る前に委員会には報告していただきたいと思います。

○西山委員長 課長、報告。

○成田資源循環課長 口頭ではないほうがいいかなと思っておりまして・・・。

○西山委員長 石松委員。

○石松俊雄委員 反対意見も一部あるのでしょうか。さっきの大貫議員の報告では、そういう意見も出てるしって。どこか他のとこに作ってくれという極端な意見もあるのかもしれないのですが、そういうこともろもろ含めて、どういう説明をしたらどういう意見や要望が上がって、さらにそれに対してどういうふうに説明をして地元の皆さんに納得していただいたという、合意が形成できたという報告を、基本計画がコンプリートの前に、私たちには報告していただきたいということです。今じゃなくても。

○西山委員長 課長。

○成田資源循環課長 このご質問、前回もちょうだいしております、その認識でありますので、そのとおり進めていきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○西山委員長 石井委員どうぞ。

○石井栄委員 地元の皆さんからの要望の話は、また別途ということで、基本計画に関してなのですが、概算事業費の中に基本計画がきちんと反映されるように、会議の中での意見を反映するという話だったと思うのです。運営費に関してなのですが、私この委員会の最初に発言したことなのですが、PFI、民間に委託することをお前提にした話だけで進めると大きな問題が含まれることになると思っています。実際、県北の高萩北茨城での新しい施設は、公設公営でやっているわけです。だから民間への委託いわゆるPFIやその亜流に関する委託ではなくて、そういう方式でやっていることと民間に委託してやるということの比較もしっかり委員会に提出していただいて、出された

データをもとに審査ができるようにしていただきたいと私は強く思います。どうですか。

○西山委員長 課長。

○成田資源循環課長 繰り返しの答弁になりますけれども、遅れ遅れになっておりますPFI導入可能性調査の中で、その点は整理してご説明していけるのではないかなというふうに考えてございます。

以上でございます。

○西山委員長 石井委員。

○石井栄委員 公設公営との比較がきちんとできるようなデータを出していただけるということでもいいわけですね。

○西山委員長 課長、答弁。

○成田資源循環課長 基本的には公設公営でやった場合とそれ以外のPFI等を入れた場合との比較というような整理でいくものでございますので、その点は出せるのかなというふうに思っております。

以上でございます。

○西山委員長 村上委員どうぞ。

○村上寿之委員 さっき石松委員からお話出たように、地元との話の件で、私も一言言いたいのですが、この間、私、地元との話をこの場で言ってくれというものをお話したじゃないですか、地元と話を。いま石松委員から、そういうふうに言われなければこの場でお話が出なかったのですが、いつそのような話はしようというお考えはあったのでしょうか。そこのところ、ちょっと聞かせてください。

○西山委員長 課長答弁。

○成田資源循環課長 前回、説明会の概略については、簡易な資料でご報告させていただいております。より詳細なやりとり、あるいは説明会に使用した資料、その辺りをご提示しての説明というふうに思っておりました。その間、実は昨日も区会のほうにお邪魔した経緯もございましたので、今後調整して改めてお出ししたいという考えでございました。

以上でございます。

○西山委員長 村上委員どうぞ。

○村上寿之委員 私はそのお話を皆さんの前で、紙とかそういうことじゃなくて、お伝えしてくれという話をしたのだけど、全然そういう考えじゃないような気がするのですが、その辺どうでしょうか。何が言いたいかというと、そういう生の話を私たちは聞きたいわけなのです、どういう話をしたとかそういう話をしたという。それを参考にしているいろいろな物事を考えていきたいのですが、私が言ったことに対して全然答えが返ってきてないじゃないですか、それは。そういうこと自体が結局遅れになっているのです。もうちょい、みんなの話を。遅れて進まないということも、本当に忙しいから分かるけど、今言ったようにまた年度末までにいろいろ調整するとか何か言ったけど、そんなのまた間に合わな

くなっちゃうのじゃないですか、こんな話もできないようじゃ。そこのところしっかりしてほしいのです。しっかり出してくれと言ったものを、全然発言で返ってきていないという事は、私もいただけないなというふうに思って質問させてもらったのですが、その辺いかがですか。

はい委員長。

したと。

○西山委員長 暫時休憩いたします。

午前10時06分休憩

午前10時14分再開

○西山委員長 休憩前に引き続き会議を開きます。

それでは課長から答弁します。村上委員の質問とか意見に対して。

課長、答弁をお願いします。

○成田資源循環課長 村上委員よりご質問をいただいております地域住民説明会でどういったご意見が出たのかというところがございますけれども、10月20日と22日の内容でございます。昨日のものは、まだ整理できておりませんので、前回のものでも申し上げますと、まず一つは、脱水汚泥を受け入れることで臭気が発生すると悪臭が漂うような地域になってしまうのは我慢ができないといったご意見があった一方で、汚泥受入れに伴う臭気問題について、視察した汚泥処理施設内では臭気があるが場外に出ればほとんど感じないので、新環境センターの搬入車両も密閉式の対策などがなされていけば問題がないと感じた。そのほかでございますが、当初予定されていた焼却施設、マテリアルリサイクル施設の2施設のみを建設すれば良いのではないかと。バイオガス発電施設の場合発酵残渣も燃やしメタンガスも燃やすので仕組みが非常に理解しにくい、環境配慮になっていないのではないかと。焼却施設で一度燃やすだけで、燃やす回数を増やす必要はないなどがございます。そのほか、発酵処理をすることで脱水汚泥と同様に臭気が発生するといったご意見もございました。また、バイオガス発電施設を整備することでガスタンクが併設されることになるが、絶対安全ということはあるに、危険な場所は人に避けてしまう。将来が不安であるといったご意見もございました。また、建設コストや運営費、売電見通しなどについて、把握しているか。できるだけ市民負担が少ない形で進めていただきたいなどがございます。そのほか、地域のイメージダウンが心配である。新たな環境センターが建設されてイメージがよくなったと言えるような地域活性化策の提案をお願いしたいなどといったご意見もございました。そのほかには、脱水汚泥やバイオガス発電施設の整備に対し、不安や反対のご意見がある中、類似先進施設などを見学して、いい面や悪い面を見聞きしてはどうかなどといったご意見もございました。

意見の概略は以上でございます。

このほか前回石松委員より、どういった資料でどういった回答したのか、より詳細なものを。また、今後どう説明していくのかなどのご意見いただいておりますので、この点はちょっと改めて整理させていただいて、別途ご報告の形をとりたいと考えてございます。

以上でございます。

○西山委員長 村上委員。

○村上寿之委員 ありがとうございます。その部分の回答を後でよく聞かしていただければいいなというふうに思うのでよろしくお願いします。

以上です。

○西山委員長 ほかになければ。

はい、酒井委員。

○酒井正輝委員 ちょっと遅れて来てしまったので、もう既にほかの方から同じ問いが出ていたらすいません。

①の問いに対する答えに、ちょっと伺いたいことがあるので質問します。文面で見ただけでありますと、前回、大貫委員が建設費にもCO₂は発生するのだとおっしゃってましたが、質問書の文面にはそれがはっきり明記はされていないのですが、この質問書をつくる段階にあたっては、私もずっと建設時から壊すところまで総じて見た場合のCO₂削減効果という意味で聞いているのです。でもこの回答を見るとそれが反映されていないのですがその辺はどうなっているのですか。ちょっと聞きたいです。

○西山委員長 課長、答弁。

○成田資源循環課長 この点につきましては、これまでもご質問いただいていた中で、どうしても仮の数字をはめての仮の試算という中で、建設費場合によってはその後の解体費などとなってまいりますと、なかなか我々の水準レベルではお見せできるような試算に至らないのではないかとということです。また市のほうの脱炭素といいますか環境負荷低減の取組の考え方としては、いわゆる運営に関わる部分の試算の仕方のみが計算式がある程度確立されておりますので、その運営の点のみをもって試算したということで、建設時並びに解体時のCO₂の算出に関しましては、現状こちらとしては不可能であるという考えでございます。

以上でございます。

○西山委員長 酒井委員。

○酒井正輝委員 ずっとこの件に関しては聞いているのですが、結局、私が聞く意味での文脈とか視座での効果があるのかという疑問に対しては、分かりませんという事実、不可能ですということで理解しました。

もう一つ伺いたいのなのですが、しばらく前に私のほうから、資料としていろいろ計算してバイオ施設の効果を問うという資料を提出したときに、笠間市CO₂削減のためのソーラーパネルの補助事業1億円に対する費用対効果を計算して出したのですが。今回の試

算した 1.1%効果ありますということに対する 1 億円当たり費用対効果です。パネル事業のほうが削減効果が多いのじゃないかと思うのですが、それに対して何でバイオ施設を建てるということで、ごみ処理施設において、CO₂削減をするほかの事業よりも優位性があると判断されているのですか。そこはどうお考えですか。

○西山委員長 課長、答弁。

○成田資源循環課長 酒井委員のほうから、参考資料ということで以前ご提示いただいたものに掲載のあったお話かというふうに思っているのですが、申し訳ありません、いわゆる他事業との比較というよりは、どうしても現環境センターに対して、新しい環境センターがどれだけ削減効果が得られるのかというのが、まず第一の考えてございまして、それは先ほど申し上げた、いわゆる削減量の計算式がある程度市のマニュアル等で確立されているからであるというところなのです。その上でバイオと焼却の差ということになってきますと今回お示したように、双方発電ができれば、ほとんど差がない状態、仮に焼却のほうが小規模であるとかそういったことから発電ができなければ、6%台の差が出るというような、そういう試算結果をお示したもので、こういったことでパネル事業との、他事業との比較というのは、申し訳ございませんが、今回の施設建設の中ではやる考えは今のところございません。

以上でございます。

○西山委員長 はい、酒井委員。

○酒井正輝委員 そうだとすると、この効果がありますと書いているわけじゃないですか。何に対して効果があるのか。0 じゃなければ、例えば 1 ミリでも CO₂削減できれば、効果があるといって進めるのですか。そう捉えられるような文面なのですが、そういう解釈していいのですか。明らかに下方修正されてるわけじゃないですか。しかも当初見込んでいたより 3 分の 1 になってしまった。3 分の 1 って結構大きいと思うのですが。本当にほんのちょっとでも、数字が 1 でもプラスに傾けば効果ありますと言って、バイオを建てますという回答になると思うのですが。私はそこにすごく疑問を感じます。0 よりほんのちょっとでもプラスに転じればそれは効果あるとお考えなのですか。

○西山委員長 課長、答弁。

○成田資源循環課長 私の説明が悪いのかもしれないのですが、まず現環境センターに対して、新環境センターがどれだけ減るかということで、数字的にはあくまで試算上ですが、50%程度の削減があるということで、新環境センターに関してはバイオ併設であろうが焼却単独であろうが、一定の効果が得られるものになるのではないかと考えております。その上で、0.6%つまり 1%未満でも下がれば効果があるのかと言われれば、ほとんど差がない状態で、なかなかそこは我々も断言しにくいというところはございます。その上で、もう一つ試算として、2 種類出しているのですが、前回の附属資料で補足参考事項では文面で記載していた点なのですが、0.6%のほうは、焼却施設、バイオ併

設とも発電ができた再生可能エネルギーでの相殺ができた場合の試算でございます。もう一つのほうが焼却施設では小規模やごみ量の減少や質の変化から、恐らく発電ができないだろうというところを、この間の必要性の中でも申し上げたところでございます。そういったことで見ると約6.6%程度の差が出ると、これら三つです。大きくこの辺を総合して、効果が一定の効果はあるであろうと解釈しているところでございます。

以上でございます。

○西山委員長 酒井委員。

○酒井正輝委員 分かりました。ただその三つの効果なのですが、一つ目の説明に関しては、規模を少なくするのだから、どっちにしろ減るじゃないですか。バイオありなし関係ないじゃないですか。だから質問の趣旨とはずれてますということなのです。意図的に言ってるのかはわかりませんが、いやバイオ効果ありますよと言っても、それはバイオとは関係ないじゃないですかということです。お話聞いていると、やってみなければ分からないということなのです。結局、もうこれ以上言っても平行線になると思うのですが、分からないのに何でやるのですかということで、明確な回答ではなかったという感想だということをお伝えしておこうと思います。

取りあえず、ありがとうございました。

○西山委員長 答弁よろしいですね。

ほかにありませんか。

なければ、執行部に退席をいただいて（２）に入りたいと思います。

大丈夫ですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○西山委員長 暫時休憩いたします。

午前10時26分休憩

午前10時26分再開

○西山委員長 休憩前に引き続き会議を開きます。

それでは次に、（２）ゆかいふれあいセンターの今後の在り方についてであります。この件については、前回の委員会で各会派ごとに意見を取りまとめていただくことをお願いいたしました。

ここで各会派ごとのご意見をお願いしたいと思います。

暫時休憩いたします。

午前10時27分休憩

午前10時28分再開

○西山委員長 休憩前に引き続き会議を開きます。

それでは会派ごとのご報告ご意見をいただきたいと思います。順番は不同ですが、どうしますか。

はい、大貫委員。会派名を言ってから、お願いします。

○大貫千尋委員 自民クラブでございます。自民クラブの取りまとめについては、基本的に地元住民との建設当時の約束で、ゆかいふれあいセンターを設置しました。使用に関する問題とかいろいろありますが、当時の管理者の村上浩之助、副管理者の内原の大関町長、岩間の中林町長によって作られたものですから、原点に戻って地元の意見と利用者の意見によって決定していくということで、集結しました。

○西山委員長 次に、挙手によりお願いします。はい。内桶委員どうぞ。

○内桶克之委員 かさま未来です。余熱利用施設としていままで使ってきたということの経緯からいくと、余熱利用がなかなか難しいというのが今後あると思います。いま現在も余熱利用がなかなかうまくいっていないということもありますので、今後のことを考えれば、市全体の健康増進施設として考えるべきだということで、市民の皆さんが利用しやすい場所に健康増進施設として設置したほうがよりベターではないかということの意見でまわっております。

○西山委員長 石井委員どうぞ。

○石井栄委員 日本共産党の石井です。会派で相談して一応まとまったことなのですが、一つは、地元の意見を尊重して施設については考えていくとゆうことが、第一にあります。この前の地元の総会や説明会などで出た意見の中に、地元としては災害時の避難施設等が必要な施設として要望があるというお話を伺いました。そういう点から考えますと、そういう災害時の避難施設などは重要な施設だと考えますので、そういう要望が強いのであれば、しっかり検討して対応していかなければならないなというのが一つです。

それからもう一つ、余熱利用施設としてのゆかいふれあいセンターなのですが、これは市全体でも要望の強い施設でもあります。ゆかいふれあいセンターのような施設は、市民全体の要望を踏まえて、場所等も使いやすい場所等を検討して設置するのが望ましいのではないかという、その2点で提案をしたいということです。

以上です。

○西山委員長 次に、田村幸子委員。

○田村幸子委員 公明党ですが、まとめさせていただいた内容的には、令和6年の第9回の清掃施設整備計画の資料の中にもありますが、今までの市民の利用者の方々からの声をしっかりと反映する形にさせていただきたいということが一つです。それは、アンケートの中で、100名程度の方のアンケートをもとに結果を出されておりますが、実際令和5年度は6万4,821の方が利用されている。多くの方が、利用されてる中で、確かに週6回利用されてる方などもいらっしゃいますけれども、その方は例えば医者からプールでのリハビリを勧められてるとか、健康維持のためにこのプールを利用しているとか、また、学校

でのプール利用もあるなど、多岐にわたっていると思います。そういう市民の皆様の現状をしっかりと反映した形にさせていただけたらという思いがあります。また、管理に年間7,000万円かかっているということもありますが、令和6年7月の第21回の際には、公共施設などの総合管理計画のこともお話がありました。今後のインフラ整備において、少しでもコストを削減するために、縮小するというお話があったのです、公共施設を。そのときに、今の現状では、例えば海洋センターの体育館が今40年、ゆかいふれあいセンターはまだ29年なんですね。これを長寿命化してやっていけることはできないのか、また縮小しても存続できないのか。いろんな角度から考えていただいて一番市民の声が反映できるような形にさせていただければというのが私たちの願いでございます。

以上です。

○西山委員長 ありがとうございます。はい、川村委員。

○川村和夫委員 それに付随して新しいところを作る、公共施設を集約化させて減少化させるという中で、公共施設等適正管理推進事業債というのがあって、それだと充当率が90%で、あと交付税の措置率が50%なので、運営費とかも賄えるのじゃないかなというのがあったので、ぜひ執行部として勉強していただいて、よりよい市民のための施設を作っていただければと思っております。

以上です。

○西山委員長 ありがとうございます。

その他の会派の皆さんはまだ集約ができていない、現在進行形ということで、次回までに。

はい、酒井委員どうぞ。

○酒井正輝委員 一応、会派参政党ということで、私の意見としては、大体皆さんと同じで、やっぱり市民の声が反映されないと。市民が納得できるという形で事を進めるのはいいだろうと思っております。

地域住民の方とか市民の方も、施設の存続は望んでいる声が多いので、完全撤廃というのは、流れを見てもないのかなと。ただ田村委員おっしゃったように縮小して存続できないとか、いろいろな角度から議論は必要だと、ほぼ同じ意見ではあります。

○西山委員長 ありがとうございます。

本日、間に合わなかった会派につきましては、次回までにまとめていただきまして、一覧にしますので、よろしく願います。

それでは、(2)につきまして、ゆかいふれあいセンターの今後の在り方につきましては、取りあえず本日はそこまででよろしいですか。

特段の何かあれば。

なければ、次に入ります。

それでは次、(3)その他ですが、委員の皆さんからの意見をいただきたいと思っております。

今後の進め方も含めて、あるいは本日のこの質問に対する回答についての取扱い等についても含めてで結構ですから、ご意見をいただきたいと思います。

なければ、これで閉じます。

以上で、本日予定しておりました案件は終了いたしました。

次に、次回開催日程、協議すべき事項について、取りまとめをしたいと思います。

この件につきまして、ご意見があれば。

ありませんか。

石松委員。

○石松俊雄委員 地元の皆さんとのやりとりの結果が出るか、あるいは基本計画の案が出るか、そういうものが出る時期に合わせてやっていただきたいということです。

○西山委員長 ただいまご意見がありました。

よろしいですか。

それでは次回開催日につきましては、執行部との情報のやりとりをしながら、事務方でやってもらいますが、その中である程度日程が出ればそれを何パターンかのうちの一つというようにお願いしたいと思いますが、いいですか。

こんな感じでよろしいですか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○西山委員長 それでは日程につきましてはそのようにします。

事件につきましては、どうしましょう。

本日のままスライドしますか。質問の回答の延長で。今日の皆さんの求めている執行部の地元説明とかの関係の回答をいただくことでよろしいですか。取りあえずたたき台にしちやってよろしいですか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○西山委員長 ありがとうございます。

それでは事件につきましては（１）質問事項に対する回答について、（２）ゆかいふれあいセンターの今後の在り方について、（３）その他にしておきます。

よろしいですか。

これに御異議ございませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○西山委員長 はい。ありがとうございます。

それではそのように決したいと思いますので、よろしく願いいたします。

ほかになければ、以上で第28回清掃施設整備等調査特別委員会を終了いたします。

長時間にわたり御協力ありがとうございました。御苦労様でした。

午前10時40分閉会